

「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議 審議のまとめ（素案）」に関する意見募集の結果について

1. 意見募集の概要

（1）目的

令和4年7月25日（月）の第12回会議において公表した「審議のまとめ（素案）」について、国民から広く意見を聴取するため

（2）募集期間

令和4年7月27日（水）～8月15日（月）

2. 意見募集に対して提出された意見の数

意見募集に対して提出された全ての意見の数：280件

うち、意見提出フォーム上の意見を提出する「審議のまとめ（素案）」の項目の欄の記入に基づく項目ごとの意見の数は以下のとおり。

「全体」	: 137件
「はじめに、1. 現状、2. 課題」	: 24件
「3. 基本的な考え方」	: 18件
「4. 今後取り組むべき施策」	: 101件

（参考）意見提出者の属性等

意見提出フォーム上の「職業」の欄に記入がなされていた場合の属性を見ると、教師、主婦、会社員、自営業者、公務員、フリーランス等の方に加え、保護者、児童生徒からの意見が提出された。

また、以下の関係保護者団体から意見が提出された。

- ・ギフテッド応援隊
- ・異才ネットワーク
- ・学びの個性尊重プロジェクト
- ・子供の成長を支援する保護者の会

3. 意見の概要

※ 類似する内容の意見については以下にまとめて記載しており、記載されている意見の数は、提出された意見の数と必ずしも一致しない。

(1) 全体

(意見提出フォーム上の意見を提出する「審議のまとめ(素案)」の項目の欄に「全体」との記入があったものを記載している。)

(対象となる児童生徒に関すること)

- この有識者会議が「ギフテッド」を対象とするのではなく、広義の才能をもつ児童生徒と穏やかな表現とし、個別最適・探究学習を目指すこととしたことは非常に大切なことであり、これから進んでいくべき道。多様な子供一人ひとりが学校において認められ、力を発揮できる土台を作ってってもらいたい。全ての子供に焦点を当て政策の更なる拡充をはかるべき。
- 対象となる子供をはっきりさせてほしい。学校との接点が現在ない子供は自ら申し出でることになるのか。
- 知能検査で指数が130を超えている子についてはギフテッド教育を受ける対象としても良いのではないか。IQがなければ子供を見い出せなくなってしまうのではないか。
- 才能のある子供を特別扱いしたらいけないという前提から脱却していただきたい。先取り学習が少しできるようにするだけではギフテッドは救われない。
- 天才型ギフテッドは必ずしもはっきりとした形で問題が表出するわけではないため、本人や保護者もそれに対して何か手を打つ必要性に迫られない。
- ギフテッド児の困難の主要原因は「OE(過興奮性)」と「非同期発達」の2点にある。「審議のまとめ」内でも間接的にその点に触れてはいる。しかし書き方が弱い。このような書き方ではギフテッド児に対する理解が浅い読み手にはOEや非同期発達の重要性が伝わらない。

(支援の在り方に関すること)

- 特異な才能のある児童生徒に対する学校の指導・支援の大前提として、彼らが「他者から理解されている・受け入れられている」という安心感を持って通える場所であることが不可欠。支援は、“安心”が大前提である。
- 集団、社会の中に自分がそのまま存在して良いのだ、と本人が思えるように、周囲の寛容さと理解があってほしい。
- 学校教育において、個性の尊重・個別最適な学びの提供は非常に重要であり、魅力的。必ずしも教科で区切らず、一つの事柄を色々な角度から総合的に学ぶ方法も楽しいはず。
- 同じことを同じペースでやることを平等と考え、そこからはみ出た子を別の扱いにするのではなく、個々それぞれに違っていることが平等または公正であるという、平等感、公平感の転換も盛り込んでいただきたい。
- 頑張っても苦手なことがある子供にとって、その項目での理解と配慮があると安心して学校生活を送ることができるのではないか。

- 同じ年齢の子供たちが同じ学びの場で学ぶこと自体に限界がある。
- ギフテッドの子はクラスなどに分かり合える友達がおらず、孤独な状態である。全国のギフテッドと交流を持てるような時間を設けてほしい。
- 「特異な才能がある子が、より才能を伸ばすための教育」と「特異な才能がある子の中で、困り感がある子を支援する教育」の二つは別の教育なので分けて考えるべき。
- ギフテッド児の困難を考える上で根本的に重要なのは小学校低学年であるため、低学年からの支援が必要。
- 学校生活のつまずきの一因が、その子の持つ「特異な才能」であると判明するまでに時間がかかることは珍しくない。低学年の子供では、才能面よりも問題行動が目立ち叱責を受けたり、逆に無理に環境に適応しようとして気持ちを抑え込んだりするケースが多くある。この時期から自己肯定感を育める環境に置くなど、早期に適切な支援の下で自己理解を進めていくことが大切で低学年からのサポート体制の構築が必要。
- 高校卒業後、あるいは大学卒業後の就職などの支援についての言及が必要かと思われる。
- 私達大人もまた受け身・管理の教育を受けてきた事も手伝って、子供の教育は学校、先生にしてもらいもの、また子供の気持ちや考えを尊重するのではなく、親の理想で行動・管理するものと思っている人はまだまだ多い。こうした考えを改め、子供を1人の人間として尊重することを第一優先にして動くという事を親もまた一緒に考えていかなければならない事を伝えていく必要がある。

(具体の支援に関すること)

- 少人数クラスや何よりも本人に合った環境調整が大事だと思うので、それに対応できるよう教職員や専門的な人材を増やすことが必要。
- スクールカウンセラー、一人ひとりのニーズを的確に把握するためのアセスメントができる専門家・作業療法士・LD(学習障害)支援などの専門人材の充実が必要。また、そうした人材が家庭と連携できるようにすることが必要。
- 特異な才能を有し困り事も抱えている児童に対して、学校外の信頼できる医療機関、専門機関を学校が紹介できることが大切。保護者もどこへ相談に行けば良いかわからないケースもある。そこでヒアリングやアセスメントを通して、その子がどのような特性を持つのか理解することが第一。
- 支援に関わる全ての機関の「連携」を正常に機能させる事を重視して頂きたい。それぞれの役割を明確にする必要がある。また教育委員会へ今回の支援について権限を持たせて、強く押し進めていただきたい。
- 地域・学校・教員によって対応が異ならないようガイドラインを設けてほしい。
- 特異な才能は、その分野が極めて多岐にわたっており、学校外における学びの場の設定については、特に地方においては個別最適な学びを児童生徒の居住地のみで完結して行うのは非常に困難。個別最適な学びを協働的に行うためには、オンライン上で当該児童生徒を繋ぐことが最も効率的で効果的であると考えます。

- 学校での支援や配慮を受けるのに診断書や検査結果の提出が前提とされることをやめてほしい。
- 「ジュニアドクター」や「各種コンテスト」など現在の日本における取組は、学習者や保護者、ごく一部の教員の、情報収集能力や行動力、意識レベルに依存している。より広く周知を図り、いつでも、誰にでも、平等に情報が提供され、その機会が与えられるべき。
- 現在は親が自分から子供の知的好奇心を満たす機会を得るための情報を、膨大な情報量の中から手探りで探して行っている状態。もっと国など公的機関主導でまとめてアクセスしやすいしくみを作ってほしい。
- 学校外の機関にアクセスできるようにするための情報集約・提供に関して、どのように学校外の機関を取捨選択するのかというルール作りが必要。
- 外部機関のプログラムに関し、教育機関からお墨付きを与える形にしたり、アメリカのギフト教育に携わる機関複数をもとに日本に誘致するなどして、それぞれが異なる判断基準で間接的にギフト教育の認定をしてもらうのが良いのではないか。
- 大学などの教育機関で行う専門的な講座に、低年齢でも参加可能にしてほしい。
- 図書館や科学館、博物館が子供の居場所として機能して欲しい。
- 塾や習い事を一人一つは確実にできる環境を子供たちに与えるのも家庭や学校が合わない子の息抜きや能力を引き出す一つの方法だと思う。
- 学校外での学びについても学校内での評価と合わせて相応の評価をしてほしい。
- 学校外での居場所づくりにおいては、単に場所や課題を用意するだけでなく、メンタル面のサポートができる専門家、教育（SEM など）の専門家など、横のつながりの構築が肝要。多方面の専門家、教育者、保護者が一丸となって子供を支えていくことができるよう、包括的なプロジェクトの始動を希望する。
- 保護者へのサポートについても言及されている点は大変評価できる。
- 親も含めギフトコミュニティなどの拡大支援もしていただきたい。
- フリースクール等民間団体で学習支援等を受ける場合の金銭的な補助、多様な教育機会を提供する役割を担う地域のフリースクールに対しての援助が必要。
- 学びの講座などは高額なものも多く、さらに交通費など諸経費もかかり、金銭的な問題で突出した子に見合う学びの機会を作りにくい家庭もある。家庭の経済的な負担への支援が必要。

（現行の教育システムの変更等に関すること）

- 一人一人の習得や興味が異なるため、義務教育期間に単位制を導入し、本人が選択できるようにすべき。
- 飛び級を認めるべき。あるいは教科ごとの飛び級を認めるべき。
- 才能があっても、すべてにバランスが取れているわけではなく、精神的には幼い面があることもあるため、飛び級ではなく、部分早修を認めるべき。
- ホームスクールを公認すべき。
- 義務教育スタートの年齢をそれぞれの子供の発達特性を踏まえた上で決めるべき。
- 地域の学校に所属するという制度をやめるべき。

(教職員の研修等に関すること)

- 現場の教師や管理職の対応が個々でまるで異なっている。特定分野に特異な才能のある児童生徒の特長を、管理職をはじめとするすべての教職員に早急に知っていただくことで、不登校になる辛さを回避できる可能性が高くなると思う。
- 国主導で研修会を開催すべき。
- 教員の研修の中で「特異な才能」というものは顕在化していないものが多いという事を明示してほしい。
- 教職員に詰め込みで理解を強いるのではなく、まずは学校外の機関と協力しながら、少しずつサポートの幅や理解を深めた方が良い。特性の理解のために動画コンテンツを見て知識を得るのは良いが、型にはまった判断を生んでしまうのではないかという危惧がある。
- 教師も多忙でなかなか手が回らない。動画コンテンツとあわせて、授業ですぐに使える資料や、学習補助教材（ワークシート、アプリ、サイトリンク集）を配布することが、現場の教員の負担軽減と、実践の実現に向けた有効な手立ての一つではいか。
- 4年間ある教育学部の講義や教職課程の中で、特異な才能のある子の姿を学べるように、カリキュラムに入れてほしい。

(用語に関すること)

- 特異な才能という言い方について、「特異」という言葉のイメージがやはりあまりよくないように思う。何か、特別に変わっていないといけないような印象になる。
- 「才能」という言葉を使うことで子供達にプレッシャーを与えないか。また、周囲から誤解され嫉妬の対象にならないか気がかり。
- 「特定分野に特異な才能のある児童生徒」という言葉がどのような生徒を想定しているのか。その言葉だけでイメージを掴むのが非常に難しいと感じた。「ギフテッド」も誤解偏見を大きく招く言葉だと実感しているが「特異な才能」というのもまた難しいと思う。最も支援を必要としている子供が見過ごされる事がないよう、慎重な名称選びをお願いしたい。
- マスコミで記事が出て以降、SNS上で「ギフテッド」に対する偏見、妬み、嫉み、攻撃がものすごい勢いで広がっている。メディアを活用して「ギフテッド」と呼ばれる子たちの社会の理解と享受を叶えて欲しい。

(2) はじめに、1. 現状、2. 課題

(意見提出フォーム上の意見を提出する「審議のまとめ(素案)」の項目の欄に「はじめに、1. 現状、2. 課題」との記入があったものを記載している。)

(対象となる児童生徒に関すること)

- 素案の2Eの説明で、才能ある子が併せ持つ障害の対象が「学習障害」に限られる印象を受けた。「学習障害や発達障害を併せ持つ場合がある」などと書き加えた方が、より現実的でわかりやすく、必要な児童に支援が行き渡るのではないか。
- 「特異な才能のある生徒」が支援を必要とする人と考えるのであれば、「高IQおよび発達特性を併せ持つ人」である所謂2Eと、「公立小学校と公立中学校での現状の義務教育において困難を抱えている高IQ者」に限定するべきではないか。
- 例えば『クラスに1人以上はいるかもしれない可能性』を明記してもらえると、不要な誤解が生まれず、もっと身近にいる存在として、この問題を身近に捉えてもらえるかと思う。
- IQを考慮しないのであれば、特異な才能はどのように測定することになるのか。見定めが難しいのではないか。先生も自分の理解を超えた理由で苦しむ子供の存在を知ることが難しいのではないか。
- 学校でのいじめをきっかけにカウンセリングを受け、ギフテッドだと分かりました。それからが大変でした。ギフテッドだと分かった途端、いじめから子供の特性にフォーカスされて学校側と話し合いができなくなった。
- 才能を見出す方法について、保護者からの幼児期の様子についてのアンケートなどが考えられる。小学校からでは観察期間が短く、担任の先生にも児童への先入観があって判断が難しい。そのため、飛びぬけた専門性や集中力を知るためには小学校からの様子だけでなく、幼いころの様子を知ることがよい判断材料になる。
- 才能を見出す方法の例として学校での制作物や発表などがあるが、才能がある児童は学校の制作物や発表で自分の才能を発揮することは、美術などを除いて、実際には考えにくいのではないかと思う。

(その他)

- 多くのギフテッド児を持つ親たちは、才能教育を求めているのではないと思う。ギフテッド児は何かしらの突出したものと、そうではない部分とのアンバランスで日常生活が困難であり、定型児が受ける一般的な教育に当てはまらないこと考えてほしいと思っている。
- ギフテッドだけでなく突出した才能を持つ国民をどのようにして日本の国力増強のために生かすか、という観点が抜け落ちているように思う。

(3) 3. 基本的な考え方

(意見提出フォーム上の意見を提出する「審議のまとめ(素案)」の項目の欄に「3. 基本的な考え方」との記載があったものを記入している。)

(対象となる児童生徒に関すること)

- 児童生徒の障害の有無に拘泥するあまり、様々なニーズを取りこぼしてしまう事態が生じていたと感じる。障害の有無で判断するのではなく、学校生活への適応の有無に視点を変えていけば、児童生徒の様々な困難に、今あるリソースでも柔軟に対応できるのではないかと考える。具体的には、特定分野に特異な才能のある児童生徒の中で、定期的な経過観察による指導・支援のニーズがフィットする子は通級指導教室が担い、毎日の丁寧な個別指導が必要の子は特別支援学級が担うということも考えられるのではないか。
- 素案では「こうした一定の定義による線引きは、特異な才能のある児童生徒そのものが同級生等から異質な存在として捉えられかねない懸念も生じる」などとして選抜や線引きに対する慎重な考え方が示されているが、しっかりと線引きを示すべき。取り出しの支援は必要。過度な競争を回避するためにやらないというのは言い訳であり、怠慢。

(支援の在り方に関すること)

- 「個別最適な学び」はなんのための、だれのためのものなのかといった、学習者中心主義について、また、その方法は単なる「独習」ではないといったことのすり合わせをすることが、時に際立った「個性・特性」にも目を向けることの必然性に納得感をもたらす。
- いわゆる落ちこぼれ、ふきこぼれの子供たちの問題は、「同じ年に生まれた子供たちが同じ時期に同じペースで学んでいく」ことの限界を示していると思う。就学時期や学ぶペースを自由に選択できるようになれば、それぞれのペースで履修内容を習得していけるのではないか。留年制度や飛び級が選択できるようになってほしい。
- 現在質の高い動画授業が無料で視聴できるような時代になっており、学校が一方的な知識の伝達の場のままでは子供たちが離れていくと思う。仲間と集まってしかできないような魅力的なプロジェクトを、学校の外ともつながりながら展開していくなど、一斉授業からのシフトが求められているのではないか。
- 同質化の押し付け文化をなくせば十分に過ごしやすい環境が与えられる、これがまず大前提であるように思う。
- 素案に「将来的な自立と社会参加を見据えて」とあるが、現状これが過度に要求されているように感じる。
- 児童生徒の学力その他才能の程度を考慮せずに、一律にクラス単位や学年単位でプログラムを全員参加とする取組や、形式的には任意参加であるとしても実際には参加する児童生徒が大部分となるような取組は、児童生徒に対する強制が生じることのないよう運用に留意する必要がある旨が「基本的な考え方」として記載されることを強く希望する。

(4) 4. 今後取り組むべき施策

(意見提出フォーム上の意見を提出する「審議のまとめ(素案)」の項目の欄に「4. 今後取り組むべき施策」との記入があったものを記載している。)

(教職員の研修等に関すること)

- 教育現場での認識を浸透させ、教師のマインドセットを変えていく必要がある。
- 教員はコーディネーターとしての役割を果たせるような力量を持つことが必要。
- 教職課程で学ぶ大学生への周知や、国立大学にこうした児童を育成するためのコースをつくることを検討してはどうか。
- 教職課程において、教科学習や学級経営とのつながりを意識した認知心理学や発達心理学などの専門知識に関する学修を必修とすべき。

(教職員へのサポートに関すること)

- 教職員が児童生徒の対応等について相談できる場や窓口が必要。
- 教員の研修の充実の一環、研修を相互的に補完するものとして、こんな時、どうする?どうしている?といった情報交換ができる場があるといいと思う。「発達障害」「ギフテッド」といったカテゴリから検索するのではなく、子供の様子や、「困った」行動から検索できるものがないのではないか。
- 教員が率直な悩みを相談できたり、建設的なアドバイスをもらったり、知見を共有できる、インタラクティブな場があるといいと思う。
- ギフテッド児は、知的面と情緒面の支援が必要だといわれている。情緒面の支援は学校や先生方にとっては更に難しいのではないかと懸念している。情緒面の具体的な支援方法やギフテッドの専門家の相談窓口が必要。
- 先生をまず孤立させないように臨床心理士や神経科、理学療法師などの専門的な人材がフォローできる体制が必要。
- 特異な才能のある児童生徒に対応できる支援スタッフの養成・研修を積極的に開始すべきである。そうした専門な知識を有する人材の拡充なく、学校内で特異な才能のある児童生徒が適切な指導・支援を受容できるようにはならない。

(教職員の負担軽減に関すること)

- 通常学級での対応はできない。これ以上の現場負担は避けてほしい。
- たとえ研修を行ったとしても、先生方がそうした児童生徒一人ひとりのニーズに気付き、選抜し、指導・支援を行うことは難しいのではないかと不安も感じる。児童生徒たちが取りこぼしなく機会を得られ、同時に保護者への支援も視野に入れながら先生方の負担を増やさないためには、学校に教員以外の人員が参画出来るよう、現行の教員採用システムを変える必要があるのではないか。

- 教師の日頃の仕事を減らす改革が必要。教師の忙しさを改善して、子供1人1人に向き合う時と心の余裕が必要。教師が忙しすぎる。恐らく、教師も新しい教育を学びたいし、子供1人1人にあった対応をしたいと思っている。
- 「やらないこと」を増やす。「やらないでいいか」の判断が、現場の先生には難しいように思うため、トップダウン的に、「やらないこと」を明確に示すことが、最初の一步として必要。

(学校内での支援に関すること)

- 一般の教科学習において ICT を活用するという視点を記載すべき。特に不登校の児童生徒に向けては、「学習指導要領に則した学びをデジタル教材で個別に進めることを認める」という考え方もあるのではないか。
- 小1～中3の9年間、ある程度好きな進度で学べるようオンライン学習の充実をはかるべき。全ての時間でなく、そういう時間が学校生活の中であると子供は助かるのではないか。
- 柔軟な科目ごとのクラス編成や、大学の様にシラバスをもとに児童が自分で授業を組み合わせさせて履修出来るような仕組みの導入を検討してはどうか。
- 一定程度、学習進度や好奇心、興味関心が同一の仲間と集団を形成することは、精神的な安定の確保の観点及び才能の伸長の観点から必要ではないか。高いIQを有する児童生徒だけの学校を設けるなど、特異な才能のある児童生徒の集団の編成についても検討してほしい。
- 特異な才能を伸ばすには安心できる仲間と場所が必要ではないか。定期的な出会いの場などを作ることで精神的な安定も得られるのではないか。
- 義務教育期間に、アンガーマネジメント、レジリエンス、ソーシャルスキルトレーニング、キャリア形成などをすべての子供が学べるようにすればよいのではないか。
- 個に応じた教育の実践は、既に特別支援学級において実践例が蓄積している。そのノウハウも積極的に活用していくことで特別支援教育とシームレスにつながり、早期に理念の実現が可能になると考える。
- 学習に関する悩みを生徒が相談できる場を作ってはどうか。通級と似ているが、生徒自ら必要を感じた時にちょっと相談できる場所、また、状況に合わせて個別学習ができる場所が必要。
- 各学校に自習室を設けて、本人が受ける必要のないと思う授業は、そちらにエスケープ出来るようにしてほしい。
- 学年関係なく利用できる部屋を学校で用意してもらえるとありがたい。図書室や保健室、校長室ではなく、知育ゲームや簡易な実験セット、図画工作の道具、楽器、図鑑などを置いた自主的な学びを促す専用の部屋で、対象となる児童が自由に入出りできる場があると、自然と友達もできて良いのではないか。

(学校外の支援に関すること)

- 学校に通えない場合であっても、企業見学、工場見学、フィールドワークなどの機会が欲しい。企業見学や工場見学は、社会科目で大変重要な学びの機会であるため。
- 大学の講義に参加したり、大学の図書館を好きな時に気軽に利用したりできるようにしてほしい。

- 大学生や引退した教員などと連携し、保護者以外にも知識をくれる大人と学べる制度を築いてほしい。
- 教科学習の課題は ICT プログラムで進め、単位も認定する。その上で、フリースクールなど学校外の学びの場に積極的に参加できるようにするという方向性を検討してほしい。
- ホームスクールを出席として公に認めてもらい、参加できる授業には参加できる制度を整えてもらいたい。また、ホームスクールは心理的・経済的な負担が大きいため、何か支援があるとありがたい。
- 文学、歴史、音楽、芸術、スポーツなどの理系以外の分野も含めて支援策を打ち出すべきではないか。
- すでに特定の分野に才能が見いだしている児童生徒にはそれにあつた支援をすればいいと思うが、児童生徒によっては発達過程で変化ありうるため、特定の分野に固定せず柔軟に希望する支援が組まれるといい。
- 無料で保護者も同伴でき、知的好奇心を満たす本や玩具、実験道具などがあり、専門知識のある大学生ボランティアや相談に乗れるカウンセラーがいるような居場所を作ってほしい。
- あらゆるリソースを使って、特異な才能のある児童性の貪欲な知的欲求に耐え得るだけの環境整備が必要である。その上で、どこにどんなリソースがあるのか、情報を得られるような体制を整えてほしい。
- 学校外の学びの場で学んだ成果を、内申点に加算する、または内申点を合否判定の対象にしないなど、学校外の学びの場を選択した人が不利にならない入試制度にしてほしい。
- 通常の教科書が使えないため書籍代を出してほしい。”
- 費用負担に関し、サポートしてくれる企業を募ることを検討してはどうか。企業が教育事業にお金を出すことは、社会貢献による企業のイメージアップや結果として経済発展につながるはず。すでにいくつかの財団などが支援を行っているが、こうした仕組みを構築してほしい。

(児童生徒の特性等の情報の取扱いに関すること)

- 「学校、児童生徒、保護者が共有できるポートフォリオに蓄積する」とあるが、場合によっては、児童生徒がアクセスすべきでないこともよく注意しなければならない。

(保護者等へのサポートに関すること)

- 子供が安心して生活や勉強ができる環境を作り出すのは保護者等の日常的に支援を行う者なので、不登校や育てにくさによる困難やストレスを抱える保護者等への支援も重要。
- 保護者からの質問やクレームを担当する第三者機関を作る。教育委員会がその役割を担うのもいいが、学校を管理する役目もある教育委員会だと、学校は萎縮してしまうようにも思う。第三者機関には、心理士、ソーシャルワーカー、教員経験者、民間の教育支援者、保護者などが入るといいのではないかと。常にどこかに物理的に詰めておく必要はなく、ネット上のやりとりできるものいいのではないかと。

◇ 子供たちから提出された主な意見の概要

(意見提出フォームの「年齢」欄に18歳以下の年齢又は「職業」欄に在学する学校段階の記入があった主な意見の概要を記載している。)

- 全ての学校に周知してほしい。沢山の先生に知してほしい。(小学生)
- 計算方法が違うといわれ、勉強もつまらなく不登校になった。現在は、相談室で一人自分の持ち込み勉強会をしている。テストだけ受けている。でも、漢字が読めて、選択出来ても書けない。算数や理科は授業受けなくても分かる。毎日毎日、一人で勉強も淋しい。もっと難しい勉強をしたいのに、学校では出来ない。(小学生)
- 人は正義や倫理とかより利害を気にするものだと思う。この場合ギフテッドに仕事を奪われる可能性がTwitterなどでギフテッドに対するアンチ活動する人の心理の根本にあるのだと思う。なのでまず多くの人はその心配がないことを説明するといいと思う。是非ギフテッドスクールの開設を推し進めてほしい。(高校生)
- 今悩んでいることは知的好奇心に応じた学習をすれば解決するにも関わらず、それを発想することができないため自覚することができず、先生や友達にすら相談できず1人悩んで精神を病むことがある。なのでもっと高いレベルの問題を解かせてみて学校生活が安定するのかを試みてほしい。(大学生)
- 私の学校では、授業が全く面白くなかった。先生の無意味な雑談や連帯責任という名で問題行動のない生徒まで大声で叱る旧式で時代遅れな授業、幼稚な生徒と下手にプライドを持った人ばかりが集まっており無意味な時間を過ごしたと考えている。(中学生)
- 「言語が飛び抜けて高く、周りの空気が読めすぎることで生きづらさを感じているタイプ」への学習の場及び、フォローの場の充実もぜひお願いしたい。今現在、僕の在籍する公立中学では、昨年度から学級経営では多様性への理解を進められるとともに、学習内容で合わなさを感じた時には一時的に一人で学習することができるよう工夫が講じられた。それでもそこで感じる課題は孤立によって自己嫌悪を感じてしまうこと。理解のある教員が数名と限られること。また、教員はこのような生徒に接したことがないため理解しようと努力はしてくれるが、手立てや支援の方法がわからない。(中学生)
- 飛び級とか大掛かりなことはやらなくてもいいから、授業の最初にテストをしてわかってる人は、授業中にパソコンなどで自分で勉強を進めていければいいと思う。僕は、理科が大好きだけど、学校の授業は簡単すぎてつまらなく、ボーっとしているとまじめにやっていないといわれ、怒られる。(小学生)
- まとめを読み、方向性としては素晴らしいと感じた。しかし、あまりにも具体性に乏しく、これからの実効性に疑問を感じる。自分の場合は、義務教育は苦痛でしかなかった。(15歳)
- 私は4歳の時に知能検査で高い結果が出て、赤ちゃんの頃から本が大好きで自分でめくっていた。でも学校の先生が喜ばないのは分かってるので、好きな話をしない。授業はつまらない、ではない。あまりにも簡単すぎて言い表すことができないくらい簡単すぎて辛い。能力を伸ばすより前に、健康に過ごせる学校がほしい。友達が大好きなのに、つらくて学校に行けなくてずっと会えない。私は本当に悲しい。(小学生)